

# エピペン<sup>®</sup> 携行学生に対する緊急性が高いアレルギー症状発生時の対応指針

## 緊急性が高いアレルギー症状

症状出現後、直ちに緊急性を判断助けを呼び、学生から離れず観察

### 全身の症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくい
- 唇や爪が青白い

### 呼吸器の症状

- のどや胸が締め付けられる
  - 声がかすれる
  - 犬が吠えるようなせき
  - 息がしにくい
  - 持続する強いせき込み
  - ゼーゼーする呼吸
- (ぜん息発作と区別できない場合を含む)

### 消化器の症状

- 我慢できない腹痛
- 繰り返し吐き続ける

### これらの症状がない場合

(かゆみ、充血、腫れなどの限局したアレルギー症状のみ)  
手持ちの内服薬を飲ませ、安静に過ごし、緊急性の高い症状の出現がないかを観察する。保健センターで休養、症状悪化に注意し経過をみる。

## 1つでもあてはまる場合

### ①ただちにエピペン<sup>®</sup>を使用！ ※使用後も必ず救急搬送が必要

※基本は本人が注射するが、自ら注射できない状況下においては代理で打つことも可能

エピペン<sup>®</sup>の使い方

① ケースから取り出す



② 利き手でグーで握る



③ 青い安全キャップを外す



④ 太ももの外側に注射「カチッ」と音がするまで押し当て、五つ数える



本人が注射できない場合  
衣類の上からも打つことのできるポケットの中身を確認

⑤ オレンジ色のニードルカバーがのびていることを確認する



※アドレナリン自己注射薬をエピペン<sup>®</sup>と表記

### ②同時に救急車を要請（119番通報）

「九州工業大学飯塚キャンパス●●棟で急病者がいます。」  
あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝えましょう。

### ③学内関係者へ連絡

- ・ 学生係（TEL0948-29-7524）状況把握・救急車誘導・保護者への連絡
- ・ 保健センター（TEL0948-29-7513）救急隊到着までの応急処置
- ・ 夜間・休日は警備員室へ救急車誘導を依頼（TEL0948-29-7516）

○反応がなく、呼吸がなければ、速やかに心肺蘇生を行う。AEDの使用。

○反応があれば、その場で安静を保つ体位で救急隊を待つ。

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



吐き気、おう吐がある場合



呼吸が苦しくあお向けになれない場合



○観察の開始時間、エピペン<sup>®</sup> や内服薬を使用した時間、5分ごとの症状の変化などを記録し、救急隊や学内関係者へ引き継ぐ。

エピペン<sup>®</sup>の使い方や、心肺蘇生・AEDの手順については、保健センターでもレクチャーを行っています。いざという時に落ち着いて対応できるよう、ぜひ一度確認しておきましょう。

(引用) 「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（令和元年度改訂）」文部科学省公益財団法人日本学校保健会